

令和4年12月5日付【水道産業新聞】
＜ダイバーシティの実現へ＞
働き方改革セミナーでカゴメの活動紹介

ダイバーシティの実現へ

水コン協 働き方改革セミナーでカゴメの活動紹介

全国上下水道コンサルタント協会はさきごろ、働き方改革セミナーをウェビナー形式で開いた。食品メーカーのカゴメのダイバーシティ推進・実践活動について、D&Iフォーイノベーション推進室長を務める曾根智子氏の講演を聞いた。カゴメでは、「開かれ



講師の曾根氏

た企業」の企業理念のもと、ダイバーシティを経営戦略として積極的に推進してきた。2015年には、社長直轄の「ダイバーシティ推進室」を設け、翌年には社長を委員長とする「ダイバーシティ委員会」が発足。これまでの取り組みが評価され、2017年度の「新・ダイバーシティ経営企業100選」に選定されている。

また、2018年には、「健康事業部」を立ち上げ、事業領域を拡大。2025年に「食を通して社会課題の解決に取り組む、持続的に成長できる強い企業になる」ことを目指し、長期ビジョンでは、「トマトの会社」から「野菜の会社」になること、さらに、2040年ごろまでに社員から役員まで各職位の女性比率を50%とすることを目標に掲げている。

ダイバーシティ委員会は、従業員が自律的に取り組んでいくための全社運動体で、毎年、国内全事業所の多様な属性から選任した100人超のメン

ンバーが参加している。職場の信頼関係を高める対話やコミュニケーション活性化に向けた施策、「ダイバーシティDAY」、「ワークライフセミナー」などのイベント、女性管理職や役員向けの勉強会、管理職の「イクボス」推進、SOGI（性的指向と性自認）の尊重など多彩な活動を展開している。

「トマトの会社」から「野菜の会社」を目指し、同社初となる「コトビジュネス」に取り組む健康事業部では、企業や自治体などに向けた健康サポートプログラムの提供や市民に向けた健康セミナーの開催など、持続的な情報発信をサービスとして事業化。野菜摂取量が不足している勤労世代の食生活に関する意識・行動の変容を促し、コミュニケーション活性化やワークパフォーマンスの向上を図ることで、健康寿命の延伸と健康経営の実現に貢献している。

曾根氏は、ダイバーシティの実現に向け、「熱意・誠意と尊敬・尊重を基本に、多様なメンバーの意欲と可能性を大切に目指すチームを創ってほしい」と話した。